

平成29年度 施策評価表

| | |
|---------|-------------|
| 課・グループ名 | 産業振興課農政グループ |
|---------|-------------|

作成年月日：平成30年 9月28日

| | | | |
|------------------|---|---|----------------|
| 施策名 | 2-(1)-③ 消費者との交流と食育の推進 | | |
| 1. 施策の現状分析及び展開方向 | | | |
| 政策・施策の体系 | 大項目 | 中項目 | 小項目 |
| | 2. 地域ぐるみで支え育てる活力ある産業経済のまちづくり | (1) 地場の交流を通じた顔の見える農業・農村環境づくり | ③消費者との交流と食育の推進 |
| ①施策のねらいと展開方向 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本町特産の農産物の高付加価値化を推進するため、地理的表示保護制度を活用するなど、他地域との差別化を図り、生産・供給を促進するとともに、加工や直売など6次産業化への取り組みを奨励します。 ● 地元消費者と生産者の距離が近い地産地消の取り組みを中心に、南幌だからこそ手に入る安全・安心な地元農産物の消費拡大を推進します。 ● 札幌近郊という地理的優位性を活かし、消費者ニーズの把握と都市住民に向けた効果的な情報発信に努め、新鮮かつ安全・安心な農産物の消費活動を推進します。 ● 農業者自らが取り組むグリーンツーリズム事業を推進します。 ● クリーン農業を推進し、付加価値の高い食品づくりや販路拡大を促進します。 ● 南幌町食育推進計画の目標達成に向けて、食育を推進します。 ● 農産物加工センターで製造販売している特産品の地元消費を拡大するため、住民還元の効果的な方法を検討・実施し、地産地消につなげていきます。 ● 道央圏連絡道路の開通に合わせた本町6次化の拠点となる農産物直売所等の整備について、検討を進めます。 | | |
| ②施策の現状と課題 | 現 状 | 課 題 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 生産者自らの取り組みとして、朝市や花市が開催されているほか、町内会からの依頼により町内会での催しにあわせて移動直売会を開催し、生産者と消費者との交流の場が設けられています。 ● 農産物の高付加価値化や地場農産物の消費拡大のため、農業者自らが、直売所や地域等で直売を行っています。 ● 特産である農産物を加工した新しい商品が開発され販売されています。 ● 生産者自らが、都市部からの住民の農業体験を受け入れるなど、グリーンツーリズムとして徐々に定着しています。 ● 『農業がもつ「食」のすばらしさを伝える』ことを基本理念とした南幌町食育推進計画に基づき、食育に関する事業が行われています。 ● 本町特産品を用いたキャベツキムチに対する理解を深めてもらうため、町民還元事業を実施しています。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本町住民のほか札幌圏の消費者に南幌産農産物の多様性と新鮮さをアピールするとともに、農業・農村への理解や関心を深めるため、生産者と消費者との交流を促進する必要があります。 ● 地場農産物での新たな加工品の開発と他産地との差別化に向けた取り組みが必要です。 ● 今後、外国産農作物の普及が進む中、消費者に信頼される農業を確立するため、「食」を通じて、農業の役割や重要性の理解を深める必要があります。 ● 本町を縦断する道央圏連絡道路の開通に向けて、その沿線に、6次化の拠点となる農産物直売所等の整備を検討する必要があります。 | |

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|------------------|------|------|------------|--|
| 2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況 | | | | | | | |
| ① 成果指標 | 設定の意図 | | まちづくりの成果指標名 | | | 数値化 | |
| | 食育に関する事業は複数の部署やJＡで行われているほか、町内団体でも食育活動は実施されているため、関係機関・団体で連携しながら総合的かつ計画的に食育を推進することで、より効果の高い食育の推進が図られることから、食育推進計画に記載された事業数を代替の成果指標として設定しています。 | | 成果指標 (総合計画・施策評価) | | | ○ | 可能 |
| | | | | | | □ | 不可能 |
| | | | 代替指標 ※成果指標がない場合 | | | 指標の設定 | |
| | | | 食育推進計画に記載された事業数 | | | ○ | 可能 |
| | | | □ | 不可能 | | | |
| ※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。 | | | | | | | |
| ② 指標データ | 単位 | 過年度実績 | | | 評価年度 | 目標年度 | 達成率増減の理由 |
| | | H26 | H27 | H28 | H29 | H33 | |
| 目 標 | 事業 | | | 17 | 17 | 17 | |
| 実 績 | 事業 | | | 17 | 17 | | |
| 達成率 | % | | | 100% | 100% | | |
| 評価視点 | | 評価結果 | | | | 理由・課題・問題点 | |
| ③ 施策の達成状況 | | A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である) | | | | 施策の 達成度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育推進計画に基づき各種事業を実施しており、策定委員会からの評価等により適宜事業の見直しを行います。 ・ 消費者との交流活動は関係機関・部署との連携により町内外の様々なイベントに出店し、さかんに活動が行われています。H30年度からは、都市住民に町内へ足を運んでもらい、農作物収穫をするなどの体験型交流活動を実施するため、H29年度で事業の見直し等を検討し、事業の充実を図ります。 |
| | | B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である) | | | | | |
| | | C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) | | | | A | |
| | | D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい) | | | | | |

3. 施策を構成する事務事業の評価

| | | |
|----------------|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 【種類】 事務事業の種類 | 【必要性】 事務事業の必要性 | 【妥当性】 町の関与の妥当性 |
| (1) 自主事業(自主) | (1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの | (1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業 |
| (2) 施設管理事業(施管) | (2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの | (2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業 |
| (3) 経常的事務(経常) | (3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの | (3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業 |
| (4) ハード事業(ハード) | | |

| 事業番号 | 事務事業名 | 種類 | 所管課名 | 成果指標 | 評価年度(H29) | | 事務事業の内容 | 必要性 | 妥当性 | 事務事業評価結果(方向性) | 事業費(千円) | | 施策への貢献度 <高い> <普通> <低い> |
|------|---------------|-----|-------|---|-------------------------------------|----------------------------|---|-----|-----|--------------------------|---------|-------|---------------------------------|
| | | | | | 目標 | 実績 | | | | | H29実績 | H30予算 | |
| | | | | | 単位 | | | | | | | | |
| 1 | 地産地消活動推進事業 | (1) | 産業振興課 | ①掲載する生産者数 ②参加する延べ生産者数 ③販売個数 ④生産本数 ⑤応募者数 | ①10 ②270 ③3000 ④720 ⑤50 | ①戸 ②戸 ③個 ④本 ⑤人 | ①ファーム通信の発行 ②「朝市」、「花市」、「町内移動直売会」の支援 ③南幌キャベツキムチ町民還元事業 ④特産物加工事業(南幌慧星の加工) ⑤「地産地消コンテンツ」の実施 | Ⅱ | Ⅱ | 1 現状のまま継続 | 507 | 高い | |
| | | | | | ①9 ②237 ③3186 ④720 ⑤81 | ①戸 ②戸 ③個 ④本 ⑤人 | | | | | 581 | | |
| 2 | 都市との交流と販路拡大事業 | (1) | 産業振興課 | ①参加者数 ②出店者数 ③観戦者数 | ①延100 ②6 ③15万 | ①人 ②戸 ③人 | ①町グリーンツーリズム推進事業(農業者自ら取り組む農業体験などに対し、定額の補助金交付) ②アンテナショップへの出店 ③農産物PR対策事業(副賞として南幌町産農産物の提供) | Ⅱ | Ⅱ | 2-3 見直しして継続 手段の見直し | 176 | 普通 | |
| | | | | | ①98 ②0 ③22万 | ①人 ②戸 ③人 | | | | | 377 | | |
| 3 | 食育活動推進事業 | (1) | 産業振興課 | ①参加人数 ②児童数 ③参加人数 ④支給率 | ①50 ②55 ③20 ④95 | ①人 ②人 ③人 ④% | ①親子農業体験塾 ②バケツ稲づくり学習 ③地元農産物を利用した料理・加工教室 ④子育て支援米の支給 | Ⅱ | Ⅰ | 1 現状のまま継続 | 3,125 | 高い | |
| | | | | | ①47 ②55 ③22 ④96.4 | ①人 ②人 ③人 ④% | | | | | 3,375 | | |

| | |
|-------------------|-------|
| 年度別施策全体の事業費合計(千円) | |
| H29事業費 | 3,808 |
| H30予算 | 4,333 |

| ②H30に実施した新規事務事業 | | | | |
|-----------------|------|--------------------------|--|-----------|
| 実施計画 | 実施主体 | 事務事業名 | 事務事業の内容 | H30予算(千円) |
| 1 | 町 | 都市住民との農業体験交流事業(南幌町体験ツアー) | 戸建住宅購入を考えている町外在住者に南幌町に来てもらい住宅展示場の観覧や農産物の収穫体験などを通して南幌町への理解を深めてもらう(予算はまちづくり課で一括計上) | |

| 評価視点 | 評価結果 | 理由・問題点 |
|-------------------|--------------------------------|---|
| ③事務事業の妥当性(手段は妥当か) | A 効果的な事業構成である。(現状のまま継続する) | ・食育推進については、農業・保健・教育の各分野で事業を実施していますが、今後は食育推進計画に基づき、各分野の事業連携も想定することで内容の充実を図っていきます。 ・都市との交流は、これまでのアンテナショップへの出店を見直し、都市住民が南幌町で体験型交流活動を行う事業を検討します。 ・地産地消については、町民のニーズを把握しながら、生産者と連携を図り推進していく必要があります。 |
| | B 概ね効果的な構成である。(一部見直し等の余地がある) | |
| | C あまり効果的な事業構成はない。(見直し等の余地が大きい) | |
| | D 事業構成に問題がある。(抜本的な見直し等が必要である) | |
| | 事業構成の妥当性 | B |

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

| | | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------|-------------------------------|------|---|---|--|-----------------|---|----|
| ①総合評価(今後の展開、事業の見直し等)委員会評価 | 【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。 | 事業の方向性 優先度 A~D (ランク) | 事業番号 | | | | 平成30年度以降の予算の方向性 | | |
| | | | A | | | | | | |
| | | | B | 1 | 3 | | | | 拡大 |
| | | | C | 2 | | | | ○ | 維持 |
| | | | D | | | | | | 縮小 |